# カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

2014.5/14 ～ 30

新制作
*New production*

Cavalleria Rusticana / I Pagliacci

オペラパレス｜ 6回公演〈イタリア語上演／字幕付〉

【カヴァレリア・ルスティカーナ／Cavalleria Rusticana】
初　演：1890年5月17日／ローマ／コスタンツィ劇場
作　曲：ピエトロ・マスカーニ　Pietro Mascagni（1863-1945）
台　本：ジョヴァンニ・タルジョーニ・トッツェッティ、グイード・メナーシ　Giovanni Targioni-Tozzetti, Guido Menasci

【道化師／I Pagliacci】
初　演：1892年5月21日／ミラノ／ダル・ヴェルメ劇場
作曲・台本：ルッジェーロ・レオンカヴァッロ　Ruggiero Leoncavallo（1857-1919）

## プロダクションについて

ジルベール・デフロ演出によるヴェリズモ・オペラの傑作、『カヴァレリア・ルスティカーナ』『道化師』の新制作上演です。いずれも完成度の高いこの二作品は世界中のオペラハウスのレパートリーとなっています。指揮は新国立劇場でも実績のあるレナート・パルンボ。『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥには、新国立劇場オペラ公演に数多く出演しているヴァルテル・フラッカーロ、そしてサントゥッツァにはルクレシア・ガルシアが初登場します。『道化師』カニオは初登場となるグスターヴォ・ポルタ、トニオは2011年『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵で凛とした舞台姿で好評を博したヴィットリオ・ヴィテッリが演じます。



## あらすじ

●カヴァレリア・ルスティカーナ

復活祭の朝、シチリアのとある田舎町の広場。サントゥッツァは、居酒屋を営むルチアに彼女の息子トゥリッドゥから冷たくされていることを嘆いている。サントゥッツァは、恋人のトゥリッドゥが荷馬車屋の妻ローラと密会していることに感づいていた。サントゥッツァはルチアに、トゥリッドゥは彼が兵役に行く前からローラと恋仲だったこと、戻った時にローラはアルフィオと結婚していたこと、それを忘れるために自分と深い仲になったが、ローラと再びよりが戻ったのだと訴える。ルチアが教会のミサへと立ち去ると、恋人トゥリッドゥが現れ、サントゥッツァは彼の裏切りを責めたてる。そこにローラが通りかかり、トゥリッドゥは彼女について教会の中に入って行ってしまう。激しい嫉妬にかられるサントゥッツァ。入れ違いに現れたアルフィオに、彼の妻ローラの不貞を密告する。アルフィオは怒りに燃え、復讐を誓う。ミサが終わり教会から出てきたトゥリッドゥはローラを連れてルチアの居酒屋へ。酒盛りが進むなか、アルフィオが店に入ってくる。トゥリッドゥが差し出したグラスをアルフィオは拒絶する。すべてを察したトゥリッドゥはアルフィオの耳を噛む。シチリアでの決闘申し込みの流儀だ。トゥリッドゥは、死を予感してか「もしも自分が戻らなかったらサントゥッツァをよろしく頼む」と母に告げる。胸騒ぎを覚えるルチアとサントゥッツァ。やがて遠くで人々の騒ぎ声が聞こえ、女の絶叫が届いた。「トゥリッドゥが殺された！」

●道化師

【プロローグ】道化師のトニオが現れ「道化の衣裳を着けた役者も人間。喜びも悲しみも感じることは普通の人々と何ら変わることはないのです」と口上を述べる。

【第1幕】南イタリア。町に馴染みの旅芝居の一座がやって来る。一座は座長のカニオとその妻で女優のネッダ、身体の不自由な道化のトニオ、役者のペッペという構成。トニオはネッダに惹かれているが、まったく相手にされない。この町にはネッダの若い愛人シルヴィオがいた。二人が駆け落ちの相談をしているのを陰で見ていたトニオは、嫉妬深い座長カニオに密会を知らせる。激昂するカニオは妻に浮気相手は誰かとナイフで脅かすが、口を割らない。トニオはカニオに、ネッダの恋人は芝居を見に来るので、夜まで待つよう入れ知恵をする。カニオは逆上しながらも道化芝居を演じなければならない自分の境遇を嘆きながら、化粧をして衣裳を着ける。

【第2幕】芝居小屋に人々が集まる。芝居はイタリアの古典仮面喜劇で、ネッダは浮気な人妻コロンビーナ、ペッペは浮気相手の二枚目アルレッキーノ、夫カニオはコロンビーナの亭主の道化師パリアッチョ、トニオは間抜けなタッデオという配役。パリアッチョの留守に恋人アルレッキーノと逢い引きするコロンビーナ。恋人同士はパリアッチョを毒殺する計画を立てている……。パリアッチョに扮して妻の浮気を詰問するうち、カニオは次第に現実と芝居の区別がつかなくなる。何も知らない観客は迫真の演技に拍手喝采。ネッダの台詞に逆上したカニオはナイフで彼女を刺し殺し、絶命寸前に舞台に飛び出したシルヴィオも刺してしまう。カニオは「喜劇は終わった」と叫ぶ。

New production　新制作　New production

ピエトロ・マスカーニ／ルッジェーロ・レオンカヴァッロ

# カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

Pietro Mascagni “Cavalleria Rusticana” / Ruggero Leoncavallo “I Pagliacci”

〈イタリア語上演／字幕付〉

指　揮…… レナート・パルンボ
Conductor　Renato Palumbo

演　出…… ジルベール・デフロ
Production　Gilbert Deflo

美術・衣裳…… ウィリアム・オルランディ
Scenery & Costume Design　William Orlandi

照　明…… ロベルト・ヴェントゥーリ
Lighting Design　Roberto Venturi

【カヴァレリア・ルスティカーナ／ Cavalleria Rusticana】

サントゥッツァ …… ルクレシア・ガルシア
Santuzza　Lucrecia Garcia

ローラ …… 谷口睦美
Lola　Taniguchi Mutsumi

トゥリッドゥ…… ヴァルテル・フラッカーロ
Turiddu　Walter Fraccaro

アルフィオ …… 成田博之
Alfio　Narita Hiroyuki

ルチア …… 森山京子
Lucia　Moriyama Kyoko

【道化師／ I Pagliacci】

カニオ …… グスターヴォ・ポルタ
Canio　Gustavo Porta

ネッダ …… ラケーレ・スターニシ
Nedda　Rachele Stanisci

トニオ …… ヴィットリオ・ヴィテッリ
Tonio　Vittorio Vitelli

ペッペ …… 吉田浩之
Peppe　Yoshida Hiroyuki

シルヴィオ …… 与那城 敬
Silvio　Yonashiro Kei

合　唱…… 新国立劇場合唱団
Chorus　New National Theatre Tokyo

管弦楽…… 東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra　Tokyo Philharmonic Orchestra

2014年5月14日（水）7：00　24日（土）2：00
17日（土）2：00　27日（火）2：00
21日（水）7：00　30日（金）2：00

オペラパレス

【チケット料金（税込）】
S：26,250円・A：21,000円・B：14,700円・C：8,400円・D：5,250円
【前売開始】2014年1月18日（土）



主要キャスト・スタッフプロフィール

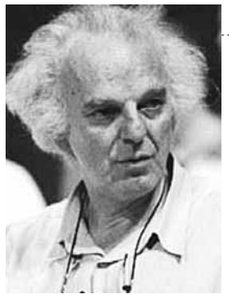
# カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

Pietro Mascagni “Cavalleria Rusticana” / Ruggero Leoncavallo “I Pagliacci”

**指揮：レナート・パルンボ**

Conductor : Renato Palumbo

イタリア・モンテベッルーナ出身。ピアノ、指揮、作曲などを学んだ後、18歳の時『イル・トロヴァトーレ』で指揮デビューし、ボン、ケルンなどで指揮者としてのキャリアを積む。1989年から94年までイスタンブール・オペラ音楽監督、93年から98年までケープタウン歌劇場首席指揮者、2006年から09年までベルリン・ドイツ・オペラの音楽監督などを務める。2000年シカゴ・リリック・オペラ『アッティラ』でアメリカデビュー、02年には『ルクレツィア・ボルジア』でミラノ・スカラ座に、『椿姫』でウィーン国立歌劇場にそれぞれデビュー。そのほか、ミラノ・スカラ座、トリノ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ロッシーニ音楽祭、ワシントン・オペラ、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ニース歌劇場、バルセロナのリセウ劇場、ビルバオ歌劇場など世界各地で指揮している。イタリア・オペラを得意とし、レパートリーは特に定評のある『ナブッコ』『アイーダ』『運命の力』などヴェルディ作品のほか、ロッシーニ、ベッリーニ、ドニゼッティ、プッチーニ、モーツァルト、ビゼー、オッフェンバック、ウェーバー、ワーグナーに至るまで幅広い。新国立劇場では1999年『リゴレット』、2005年『蝶々夫人』を指揮している。



**演出：ジルベール・デフロ**

Production : Gilbert Deflo

ベルギーのフランドル地方生まれ。ブリュッセルで学んだ後、ミラノ・ピッコロ・テアトロで、ジョルジョ・ストレーレルに師事、現在まで通じる芸術的原点となる。フランクフルトでの『3つのオレンジへの恋』演出を皮切りに、『ボリス・ゴドゥノフ』『セビリアの理髪師』、ハンブルクでの『ル・グラン・マカーブル』、ウェルシュ・ナショナル・オペラでの『影のない女』などを演出。その後、モンテヴェルディからツェムリンスキー『夢見るゲールゲ』に至るまで、150作品ものオペラ演出を手掛けてきた。ベルリン・ドイツ・オペラ、ミラノ・スカラ座、チューリッヒ歌劇場、ヴェローナ野外劇場など、世界の歌劇場を舞台に、著名な指揮者やすぐれた美術・衣裳デザイナーと活躍。2009年はパリ・オペラ座で『仮面舞踏会』、バルセロナのリセウ歌劇場で『イル・トロヴァトーレ』（オヴィエド歌劇場、トゥールーズ歌劇場の共同制作）、11年チューリヒ歌劇場『リゴレット』などを演出。新国立劇場では11年3月『マノン・レスコー』が震災のため初日を目前にして公演中止となったため、待望の初プロダクションとなる。

# カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

Pietro Mascagni “Cavalleria Rusticana” / Ruggero Leoncavallo “I Pagliacci”

## 【カヴァレリア・ルスティカーナ/ Cavalleria Rusticana】

サントゥッツァ：ルクレシア・ガルシア

Santuzza : Lucrecia Garcia

ベネズエラ出身。ヴァイオリニストとして活動した後に声楽を学び始める。1998年にスペインに移り、A. クラウスとT. ベルガンサに師事。その後数多くのコンサートに出演して研鑽を積む。2001年に『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージでオペラデビュー。スペイン各地、シアトル・オペラ、アテネ歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭、ベルリン・ドイツ・オペラ、フランクフルト・オペラなどに出演している。最近では12年7月に『アッティラ』オダベッラでサンフランシスコ・オペラにデビュー、その後ヴェローナ野外音楽祭『アイーダ』タイトルロール、パレルモ『二人のフォスカリ』ルクレツィア・コンタリーニなどに出演。13年の予定としては、ベルリン州立歌劇場（2月）とパリ・オペラ座（9月）で『アイーダ』タイトルロールのほか、フランクフルト・オペラ『仮面舞踏会』、ミラノ・スカラ座『ナブッコ』アビガイッレと『マクベス』マクベス夫人、アン・デア・ウィーン劇場『アッティラ』オダベッラなどがある。新国立劇場初登場。

トゥリッドゥ：ヴァルテル・フラッカーロ

Turiddu : Walter Fraccaro

イタリア・カステルフランコ生まれ。1994年にバルセロナのリセウ劇場『ナブッコ』でオペラデビュー。以来、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、マドリッドのレアル劇場、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラなど世界各地の歌劇場に出演。現在、世界最高のドラマティック・テノールとして『アイーダ』ラダメス、『仮面舞踏会』リッカルド、『ナブッコ』イズマエーレ、『運命の力』ドン・アルヴァーロ、『オテロ』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『ドン・カルロ』タイトルロール、『蝶々夫人』ピンカートン、『トスカ』カヴァラドッシ、『カルメン』ドン・ホセ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥなど幅広いレパートリーを誇る。最近ではサンティアゴ・テアトロ・ムニシパル『アッティラ』フォレスト、メトロポリタン歌劇場『トゥーランドット』カラフなどに出演。2013年は、ニース歌劇場『蝶々夫人』ピンカートン（3月）、サンディエゴ・オペラ『アイーダ』ラダメス（8月）などの出演が決まっている。新国立劇場には03年『アイーダ』ラダメス、08年『トゥーランドット』カラフ、11年『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、12年『オテロ』タイトルロールに出演し豊かな声量と輝かしい高音で観客を魅了した。





カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

Pietro Mascagni “Cavalleria Rusticana” / Ruggero Leoncavallo “I Pagliacci”

## 【道化師／I Pagliacci】

カニオ：グスターヴォ・ポルタ

Canio : Gustavo Porta

アルゼンチンのコルドバ生まれ。1996年にブエノスアイレスのコロン劇場でデビュー。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ライプツィヒ・オペラ、フランクフルト・オペラ、パレルモのマッシモ歌劇場、マドリッドのレアル劇場、スウェーデン王立歌劇場などに出演。『アイーダ』ラダメス、『ナブッコ』イズマエーレ、『仮面舞踏会』リッカルド、『トスカ』カヴァラドッシ、『蝶々夫人』ピンカートン、『西部の娘』ジョンソン、『マノン・レスコー』デ・グリュー、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥ、『愛の妙薬』ネモリーノ、『アンドレア・シェニエ』タイトルロール、『カルメン』ドン・ホセなどをレパートリーとする。2012年は、『道化師』カニオでウィーン国立歌劇場デビュー、ライプツィヒ・オペラ『マクベス』マクダフ、『トスカ』カヴァラドッシでライン・ドイツ・オペラ（デュッセルドルフ／デュイスブルク歌劇場）などに出演。13年は、デュッセルドルフ歌劇場『トスカ』カヴァラドッシ（2月）、ニュー・イスラエル・オペラ『オテロ』タイトルロールなどに出演予定。新国立劇場には11年3月『マノン・レスコー』デ・グリューで出演を予定していたが東日本大震災により公演中止となったため、今回が待望の初登場となる。

ネッダ：ラケーレ・スターニシ

Nedda : Rachele Stanisci

イタリア・ブリンディシ生まれ。数々のコンクールでの優勝によりロンバルディア歌劇場『ラ・ボエーム』ミミとムゼッタ、『トルコのイタリア女』フィオリッラで出演し好評を博す。その後も『道化師』ネッダ、『ファルスタッフ』フォード夫人アリーチェ、『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタなどを歌う。2000年から『ドン・カルロ』エリザベッタ、『アイーダ』タイトルロール、『アッティラ』オダベッラ、『ナブッコ』アビガイッレ、『ルイザ・ミラー』タイトルロール、『ノルマ』タイトルロール、『ファウスト』マルグリート、『マノン・レスコー』タイトルロール、『修道女アンジェリカ』タイトルロール、『カルメン』ミカエラなど、ドラマチックな役柄にまでレパートリーを広げる。これまでにバイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、フランクフルト・オペラ、モネ劇場、パリ・オペラ座、シャンゼリゼ劇場、フェニーチェ歌劇場、パレルモのマッシモ歌劇場、バルセロナのリセウ劇場などに出演。最近では11年3月ヴェローナ歌劇場『イリス』タイトルロール、アテネ国立歌劇場、10月『マノン・レスコー』タイトルロールなどに出演。13年はヴェローナ野外音楽祭『アッティラ』に出演予定。新国立劇場初登場。

トニオ：ヴィットリオ・ヴィテッリ

Tonio : Vittorio Vitelli

イタリアのアスコリ・ピチェーノ生まれ。1996年にプラシド・ドミンゴ・オペラリア声楽コンクールにおいて優勝後、国際的なキャリアをスタート。プッチーニ、ヴェルディを主なレパートリーとしてフェニーチェ歌劇場、ボローニャ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ニース歌劇場、マドリッドのレアル劇場、ワシントン・オペラ、ウィーンのクラングボーゲン音楽祭、マチェラータ音楽祭などヨーロッパを中心に活躍。『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『マノン・レスコー』レスコー、『アイーダ』アモナズロ、『オテロ』イアーゴ、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、『椿姫』ジェルモン、『シモン・ボッカネグラ』タイトルロール、『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、『道化師』トニオなど幅広いレパートリーを持ち、一流指揮者や演出家との共演を重ねている。最近はライプツィヒ・オペラ『リゴレット』タイトルロール、マルセイユ歌劇場でドニゼッティの『ポリウト』セヴェーロ、ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ歌劇場『マクベス』タイトルロールなどに出演。2014年にはリセウ歌劇場『トスカ』（新制作）スカルピアなどが予定されている。新国立劇場には11年『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵で初登場、艶のある美声と存在感ある舞台姿で客席を魅了した。